

太郎太刀

朝倉氏に仕えた真柄直隆まがらなおたかが用いたと伝えられるのが通称太郎太刀たろうだちと呼ばれている大太刀おおたちです。直隆は豪傑ごうけつとして知られ、「朝倉始末記」や「信長記」しんちょうきなどにその名が登場します。

大太刀は一般的に刀身が3尺（約90cm）以上の太刀を指します。直隆が用いたと伝えられる大太刀の長さは資料や現物によって様々ですが、いずれにせよ長い刀身であるということは共通しています。

今回は直隆と太郎太刀が登場している「朝倉始末記」を展示します。

次郎太刀

朝倉氏に仕えた真柄直隆の子真柄隆基たかもとが用いたと伝えられるのが通称次郎太刀じろうだちと呼ばれている大太刀です。隆基も父の直隆と同じく豪傑として知られています。

太郎太刀・次郎太刀という通称は同じ人物が刀を2本持つ際に長い方を太郎、短い方を次郎と区別する習慣に由来するそうです（持ち主が同一人物ではないこともあるようです）。

今回は隆基と次郎太刀も登場している「朝倉始末記」を展示します。